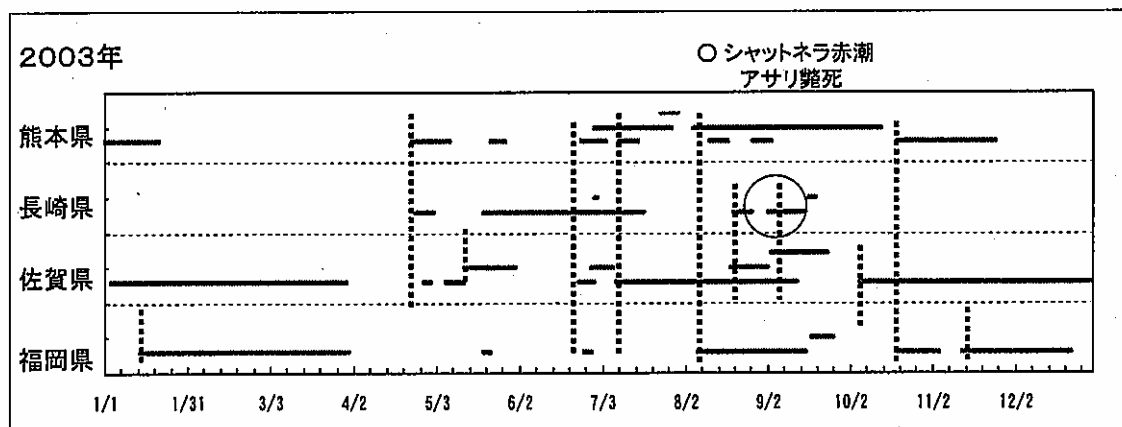


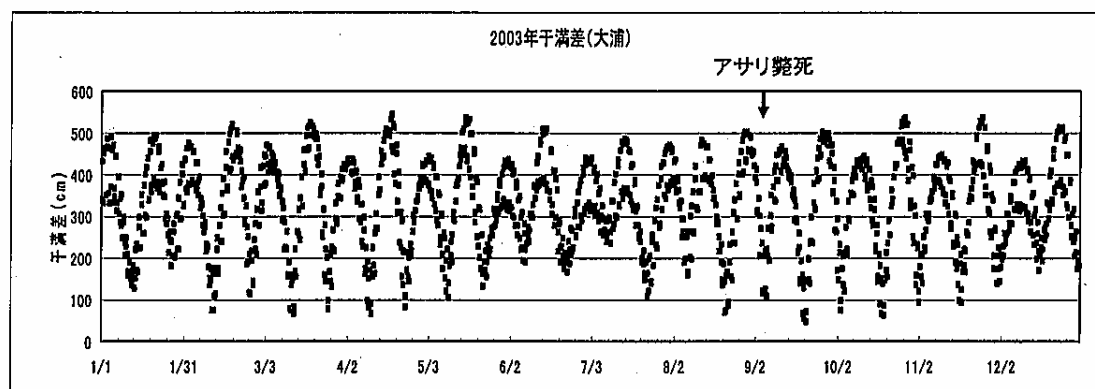
(9 2) 別添資料 92 : 赤潮と流動



注) 図の ○印は長崎県小長井地先でシャットネラ赤潮が発生し、アサリが斃死していた時期を示す。破線は小潮時を示し、この時期に赤潮の発生が多く見られる。

資料：渡辺康憲，前野幸男，藤吉栄次，垠本達也((独)水産総合研究センター西海区水産研究所)(2004)「有明海の赤潮発生状況の把握」平成15年度閉鎖性海域赤潮被害防止対策事業報告書(有明海)，pp.5-9

図 95 平成 15 年の有明海の赤潮発生状況

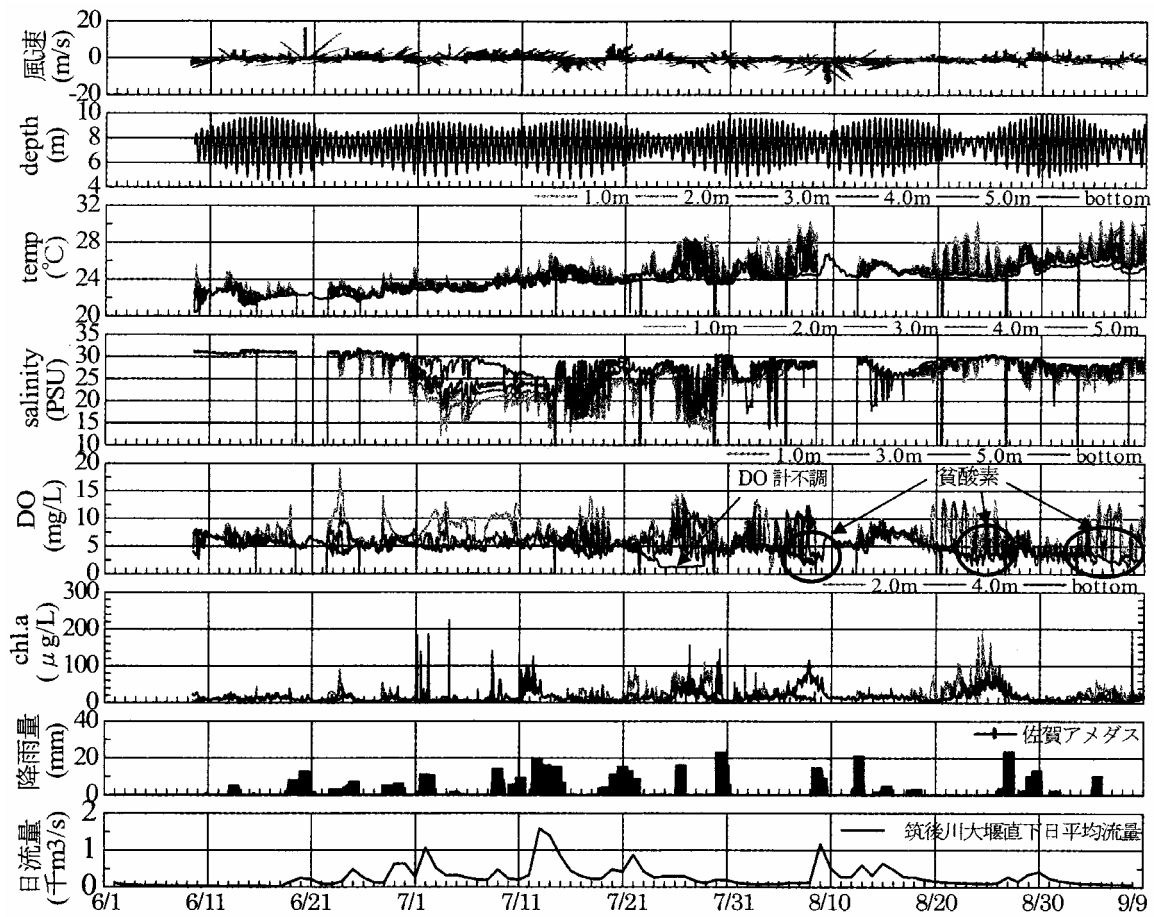


(気象庁資料より作成)

注) 春先と秋口の大潮時の干満差は 1 m に満たない。

資料：渡辺康憲，前野幸男，藤吉栄次，垠本達也((独)水産総合研究センター西海区水産研究所)(2004)「有明海の赤潮発生状況の把握」平成15年度閉鎖性海域赤潮被害防止対策事業報告書(有明海)，pp.5-9

図 96 平成 15 年の大浦の干満差



資料：中山哲蔵，((独)水産総合研究センター水産工学研究所)，佐伯信哉，((株)荒谷建設コンサルタント)，木元克則，((独)水産総合研究センター西海区水産研究所)(2004)「諫早湾での夏季における流動、成層安定性と底層の溶存酸素の関係」海岸工学論文集第50巻1号，pp.906-910

図 97 2003年夏季における水質・気象の時系列図

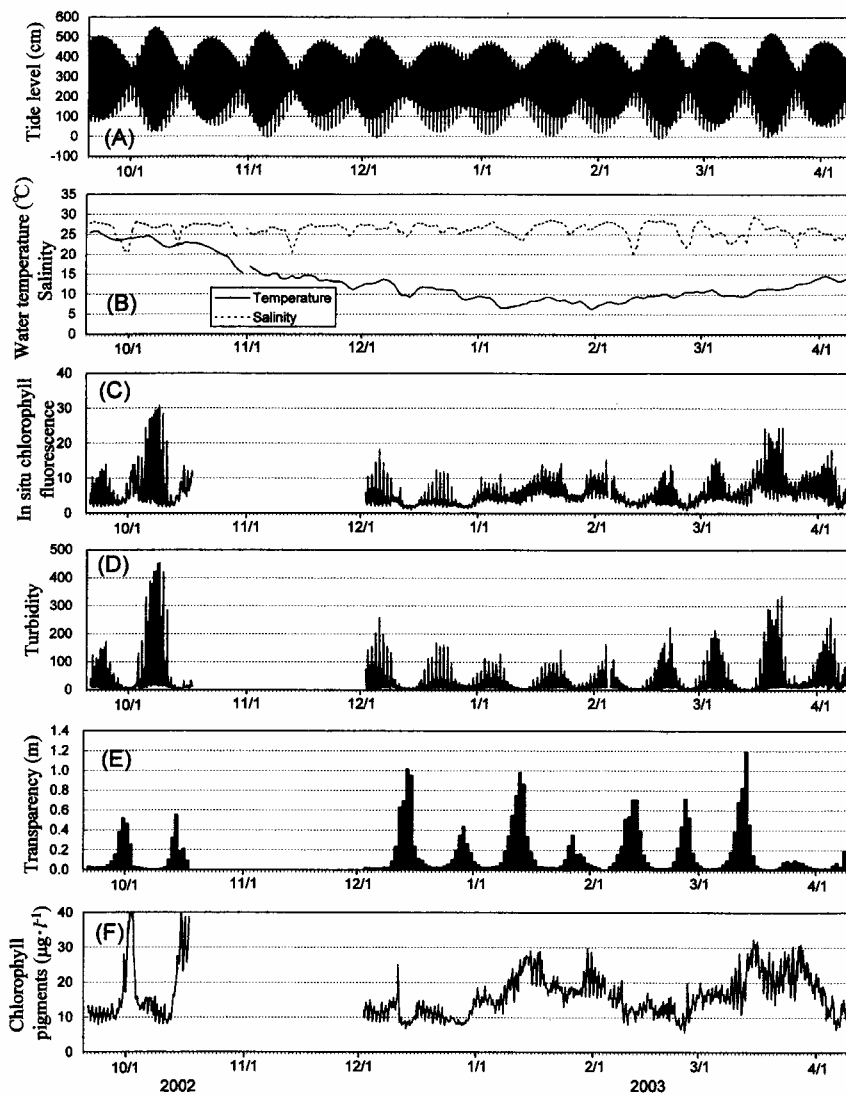
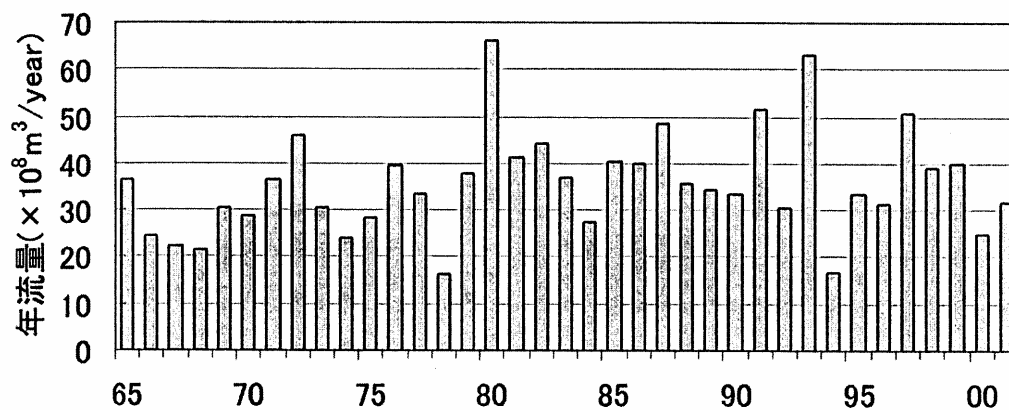


図2 2002年度ノリ漁期の三池港潮位(A)と定点2における表層(水深1 m)の日平均水温・塩分(B)、蛍光強度(C)、濁度(D)、透明度(E)、満潮時のクロロフィル色素量(F)の変動

資料：田中勝久, 児玉真史, ((独)水産総合研究センター中央水産研究所) (2004)「有明海湾奥部の環境変動に及ぼす浮泥の影響」水環境学会誌 Vol.27, No.5, pp.307-311

図 98 2002 年度ノリ漁期の三池港潮位 (A) と定点 2 における表層 (水深 1 m) の日平均水温・塩分 (B)、蛍光強度 (C)、濁度 (D)、透明度 (E)、満潮時のクロロフィル色素量 (F) の変動

(9 3) 別添資料 93 : SS 負荷量の経年変動



注) 1966年7月24日~8月14日は欠測のため含まない。

資料:「有明海の環境変化が漁業資源に及ぼす影響に関する総合研究」(平成18年3月,研究代表者 中田英昭)

図 99 筑後川(瀬ノ下)における年流量(×10⁸m³)の変動

(9 4) 別添資料 94 : ノリ養殖と潮流速

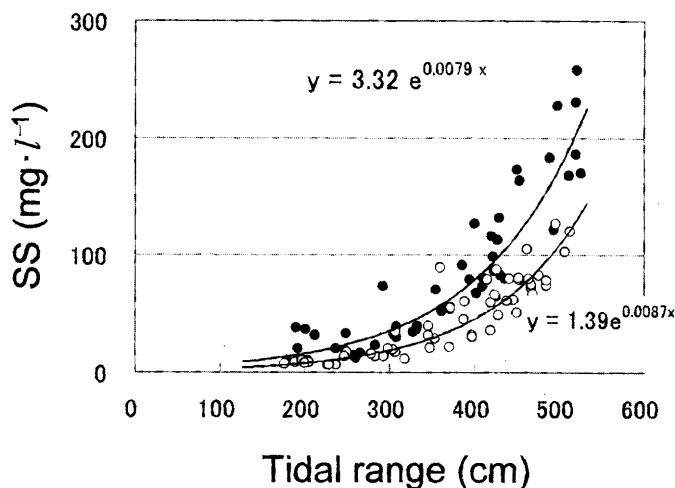


図 1-39 2002年度ノリ漁期の潮位差(三池港)と定点2における表層(水深約1m)の日平均SS濃度の関係(○ノリ漁期盛期、●前期および終期)

資料:「有明海の海洋環境の変化が生物生産に及ぼす影響の解明」(平成17年3月,農林水産省農林水産技術会議事務局編)pp.37-42

図 100 2002年度ノリ漁期の潮位差(三池港)と定点2における表層(水深約1m)の日平均SS濃度の関係(ノリ漁期盛期、前期および終期)

(9 5) 別添資料 95 : 欠番

(9 6) 別添資料 96 : 八代海における水温上昇、透明度上昇及び栄養塩流入

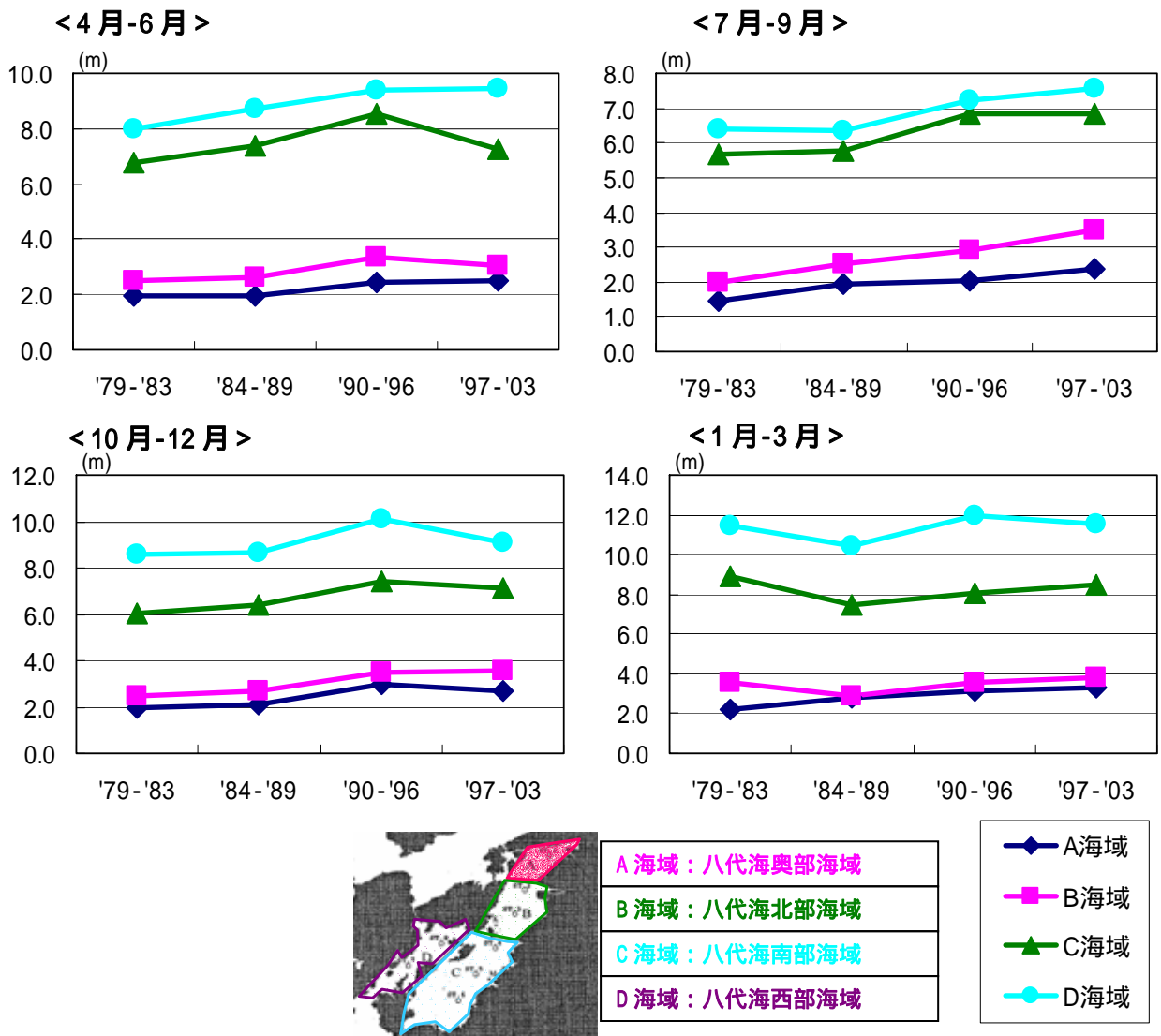
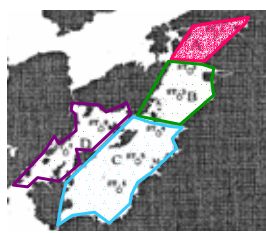
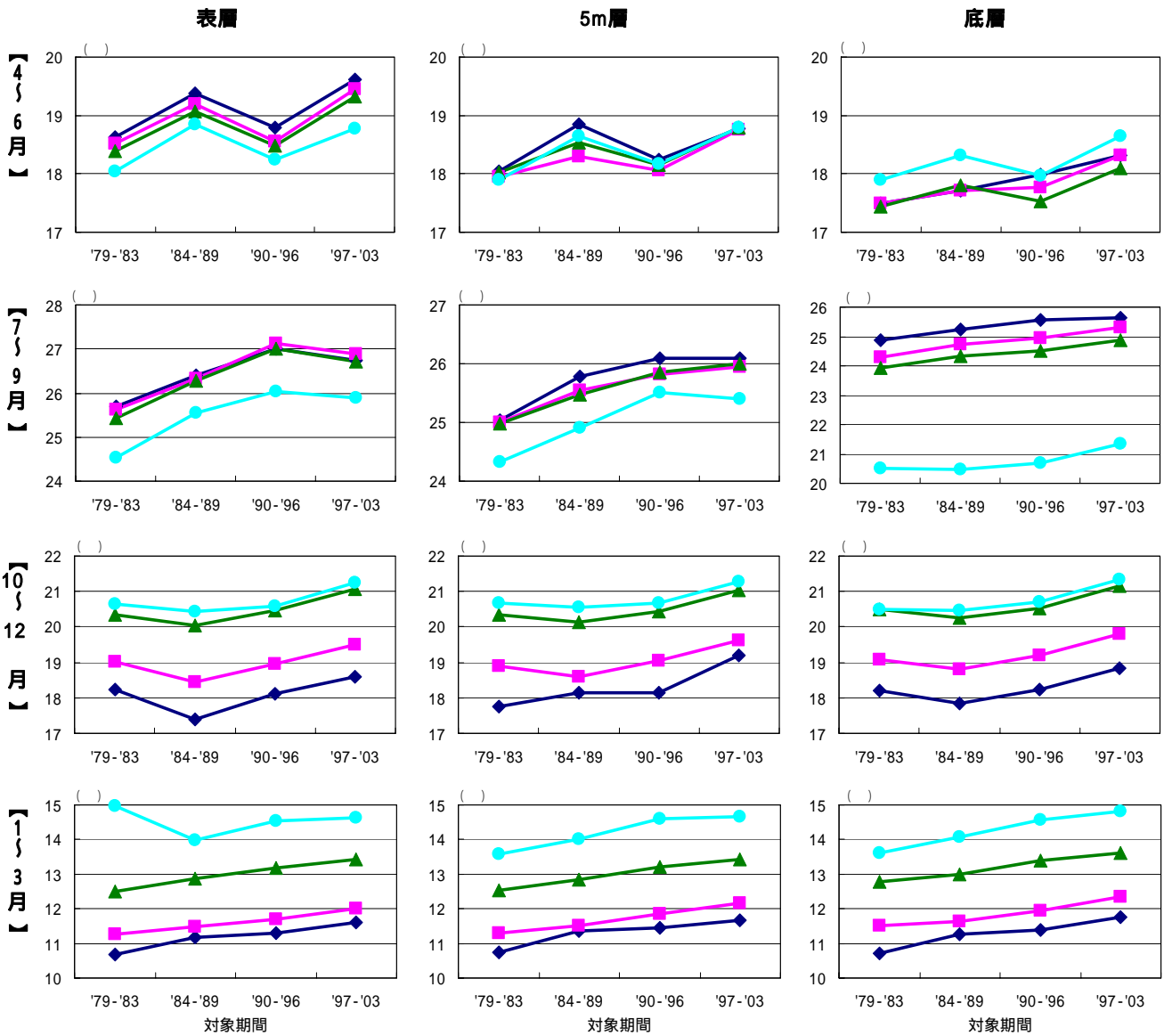


図 101 年代別季節別透明度の平均値



- | | |
|--------------|-------|
| A 海域：八代海奥部海域 | ◆ A海域 |
| B 海域：八代海北部海域 | ■ B海域 |
| C 海域：八代海南部海域 | ▲ C海域 |
| D 海域：八代海西部海域 | ● D海域 |

資料：浅海定線調査

図 102 年代別季節別水温の平均値